

議長定例記者会見 会見録

日時：令和5年8月7日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

令和5年度三重県議会インターンシップ実習生の決定について

2 質疑項目

三重県議会インターンシップについて

知事の新型コロナウイルス感染について

新型コロナウイルスの感染拡大について

知事の療養中の危機管理体制について

紀伊半島三県議会交流会議について

議長副議長の就任パーティーについて

知事の政治資金パーティーについて

二元代表制についての知事の認識について

1 発表事項

令和5年度三重県議会インターンシップ実習生の決定について

(議長)おはようございます。ただ今から8月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日は発表事項として1点、令和5年度三重県議会インターンシップ実習生の決定について発表させていただきます。お手元の資料、発表事項1をご覧ください。改めて申し上げますけれども、三重県議会インターンシップは、大学院で公共政策に関連する研究を行っている学生を実習生として受け入れ、実習生の知見を活用した提案や意見を三重県議会における監視機能の強化や、政策立案、政策提言の充実等に生かすとともに、実習生に地方議会への理解を深め、今後のキャリア形成につなげていただくために実施するものでございます。このインターンシップは平成21年度から始まり今年度で13回目となります。6月5日の定例記者会見の日から、途中、募集期間の延長を行いまして、7月27日まで実習生の募集を行ったところ、1名の応募がありまして、厳正な審査を行った上で実習生として受け入れることを決定させていただきました。受け入れを決定したインターンシップ実習生は、京都大学大学院公共政策教育部の中村翔太さん、22歳でございます。なお、実習生の年齢は、本日現在および実習期間中ともに記載の年齢となります。実習期間は9月11日月曜日から9月15日金曜日までと、9月25日月曜日から9月29日金曜日までの10日間でございます。これは本人の希望もございまして、そのようにさせていただきました。実習内容等は、県議会の取り組みや業務内容の

聴き取り、議員との対話や交流を通して意見交換などを予定しております。実習生への受入書交付式は9月11日月曜日、9時15分から議事堂3階の議長応接室で行います。裏面に続きますけれども、実習生による実習内容の報告会、9月28日の本会議終了後、議事堂3階、全員協議会室で公開にて行う予定でございます。発表事項、私からは以上でございます。

2 質疑応答

三重県議会インターンシップについて

(質問)まず幹事社からお尋ねします。中村さんは、大学院でどのような研究をされていて、どのような関心があって、どのような思いで応募されたのかという情報はありますか。

(議長)ありがとうございます。今回実習生に決定した中村さんは、大学院では地域活性化の方策について研究されておりまして、今回応募にあたって「政策提言にも力を入れていきたい」と。「現場感覚を獲得して、実効性のある有益な政策提言ができるようになりたい」との思いを持っていると聞いています。また「行政と議員がどのように協働して課題解決に当たっているかを知り、自身のキャリア形成につなげたい」とも聞いております。ご本人の希望に沿えるよう、さらに研究やキャリア形成の一助となれるよう、実習内容を工夫していきたいと考えております。

(質問)例えば、将来何を目指されているとかそういうのはいかがでしょうか。

(議長)彼はこの三重県議会のインターンシップだけではなく、国家公務員の方にもインターンシップをされていると。そういうこともあって、中央と地方ということも、そういうことがあるのかなと思うんですけど。

(質問)その一助となるように、実習を工夫したいということですけども、何かもし具体的に、今年は新たにこのようなことをしたいとか、特に力を入れていきたいというようなことはありますか。

(議長)彼の期待する地域活性化というのは、国家公務員での取り組みもさることながら、やはり全国でこの大学院生をインターンシップ受け入れているのは、実は三重県議会だけなんです。だから積極的に来ていただいて、現場を知っていただくことによって、我々からすれば、国家公務員よりも、三重県庁の方がいいよと、こういうことを少しでも分かっていたいただければありがたいなと。いい先輩もおられるんですよ。お二方こちらに来ていただいていることもあつ

て、こちらを向いてほしいなという気持ちです。

(質問)あともう一つだけ。応募の期間ですけれども、応募者がいなかったということで延長をされました。最初の時点では応募がなかったということで、その受け止めと、あと、延長したところ1人から応募があったということでこの受け止めについても意見いただけますか。

(議長)当初の予定では残念ながら応募がなかったわけでございますけれども、その分析なり課題を、個別に学校を通じていろんな角度からお聞きしたら、今回のように、国へのインターンシップやってるので、こちらも両方っていうのはなかなか抵抗があったんじゃないかとか、日にちも分散して10日間を確保してもらおうということも、応募者の希望を受け入れたということでございますので。今後そういうことを前提に、柔軟な対応ができるような募集方法も考えていかなくてはいけないのかなと思っております。

知事の新型コロナウイルス感染について

(質問)それでは発表項目以外でお尋ねします。昨日、知事の感染が発表されました。まずは、それについてどのように考えておられるのか、あと議会の影響ですね。今月中は本会議は特に予定はされていなかったと思っておりますけれども、もし何か議会への影響がありましたらお願いします。

(議長)ありがとうございます。そもそも、コロナに関するルールというか手順は、当時と変更になってまして、5類になったということ、それから、知事におかれても、我々も含めて、こういう立場にあるものが、平素から注意をしておりますけれども、どなたが感染するということも、これはあり得るわけで。これは知事とて、それはやむを得ないことかなと私は素直に思っています。議会の日程が直接影響することは、幸いなかったということでございます。もちろん県としての行事などは、私も出席する行事もありますので、その点については、主催者側、三重県とすれば、対応をすると。場合によっては変更もあるんじゃないかなと。これは知事として、また知事部局として対応をしていただければいいのかなと思います。それから日数的には、様子を間接に聞いた話ですけれども、軽症ということも聞いておりまして、5日間とか1週間で、全面回復していただけるものと私は思っております。よって、今から議会として、何か大きな行事もないわけですし、日程については支障ないと。もし何かあれば、その点についてはその都度考えていくということとしております。

新型コロナウイルスの感染拡大について

(質問)あとコロナですけれども、先月頃から特に今月に入ってまた感染状況が非常に拡大しておるようで、県も注意を呼びかけ始めたわけですけれども、今のところ感染防止対策という点において、議会で新しい対応であったりとか、何か対応変更していくことはあるのでしょうか。

(議長)先日、知事側ですけれども、7月の31日でしたか、愛知県、岐阜県、三重県がそういう状況、現状を踏まえながら、メッセージを公表しております。いわゆるコロナ感染症の感染拡大防止に向けたメッセージでございます。これについては承知しております。これについては知事部局から記者発表なり、いろんな報道を通じて周知をさせていただいているものであると思いますけれども、病床使用率なども分母が変わってますのでちょっと数値的な変化については、その時その時のことで、パーセントだけで一定の評価はできませんけれども、35から40%に迫るといような状況については、現状を聞いております。よって、医療関係、そしていろんな対応については、現状粛々と対応をする。県民の皆さま方には、それぞれが今までの経験を生かすというか、経験を踏まえての対応を引き続き周知していくと。手洗いであったり、それから大勢のところに行く対応については、その都度その都度、本人の判断とは言えども、気をつけていただくのが賢明ではないかなと思います。

(質問)特に議会としての対応はありませんか。会議の開催であったりとか委員会など、県議会の対応としては変わりありませんか。

(議長)今まで知事部局から詳細な報告なり、状況については受け承っております。場合によってはそういうことがあれば、それに応じた議会としての対応が必要であれば応じて対応するということですが、現状のルールやこのマニュアルでは、そういうことは今予定しておりません。

知事の療養中の危機管理体制について

(質問)先ほどの知事の感染の関係なんですけれども、台風6号の影響で、9日にかけて県内でも警報が出される可能性があって被害も想定されると思うんですけれども、知事がいない中で県として危機管理体制としては、どういうふうに議長として求めていくというか、そういうご所見があればお願いします。

(議長)台風についてはもうすでに報道されておりますし、事前に進路であったり、注意喚起をすべく発表が報道されておりますので、少なくとも知事部局であったり、関係施設やその関係者は当然もうすでに準備をしているわけです。発表される警報や注意報に応じて、すでにあるルールで対応をしていただける

ものと思います。もちろん知事がこういう状況ですけれども、リモートであったりそれから電話であったり、いろんな対応はしていると聞いておりますので、副知事や幹部の方が知事代行をしていただけるものと思っております。

- 第二県政記者クラブも含めてお願いします -

三重県議会インターンシップについて

(質問) インターンシップですけど、確認ですが、結局最終的に応募は1人でよろしいですか。

(議長) 1人です。

(質問) 前からお聞きしてはいますが、宿泊施設、職員宿舎使うとかあるいは知事公舎使うとか、そういうことも含めて申し送りされてるので、これはこれで来年の議長、中森さんがやられるかもしれないですけど、一応申し送りはされるんですか。

(議長) ご指摘の件につきましては、代表者会議でもご指摘があったということも踏まえて、また前回の記者会見でも皆さま方からもご質問もされていてご答弁させていただいておりますけれども、応募があったかなかったというのは大きな影響はもちろんあるんですけれども、応募があったといえども、課題としては、研修に来るための経費であったり、環境であったりというのをやっぱり直接は聞いていませんけれども、間接的にあろうかと推測されます。よって、今すでに議会事務局や関係者に可能性や方向性については、指示をしたところでございまして、どのようなことができるかを含めて、準備をしているところでございます。

(質問) ひょっとしたら、そこ整理したら来年はもっと応募があるかもしれないですね。

(議長) そのとおりでございまして、やはり多くの方、複数の方が応募していただいて、適任者を選ぶというのが本来の募集方法、募集内容だと思いますので、そのようにぜひとも来年はしたいなと思います。

(質問) この中村さんというのは、県内出身者、県外。

(議長) 県外の方です。

紀伊半島三県議会交流会議について

(質問) その他項目ですけど、明日、奈良、和歌山、三重の三県の議会の会議がありますよね、和歌山で。今回出席される方が東紀州選挙区の方だけで、北勢とか中勢の県議会議員の方は三重県はいらっしゃらないんですけど、ここまでするともうほとんど無意味じゃないですか。つまり三県議会交流と言いながら、実際問題として、これは熊野古道世界遺産登録の時に、知事部局がその三県連携して申請するのでっていうことで作られて、それを議会が追っかける形でこれ作ったので、世界遺産登録はもうなってるわけだし、三県交流じゃ議会のほうですの意味というのが、若干私が見る限りは、参加人数とか区分けも含めて形骸化している感じがするので、その辺の見直しとかというのは、議長はどうお考えですか。

(議長) まず、参加人数とか偏りというお話がありました。そもそも紀伊半島三県議会交流会議については、和歌山県や奈良県に関係するところがございまして、この取り組みについては今年もそうなんですけども、東紀州の方には優先というか、積極的に参加をしてほしいと。以外の方も希望者は参加してほしいと。今回は、松阪市選出の議員も参加していただけるということですし、正副が伊賀と津市ということでありますので、極端に偏っているとは言えませんけれども、全体から見て、北勢の方も出席できる要素は十分あるということです。それから、課題の内容につきましては、今回は観光について三重県から提案させていただきました。もうご案内のとおり、熊野古道の周年記念が当然あるということで、その前年ですので、やはりこれは知事会議でもお話がありましたので、そこは連携をしながら議会としてもバックアップというか、力を合わせてやっていこうということで、三重県から奈良県、和歌山県にもお声掛けをして、情報共有そしているんなイベントについての相互理解、相互調整をしながら盛り上げていくための手だてをお願いをしたいと思いますし、さらには2年後にあります大阪関西万博については、非常にビッグチャンス到来ですので、我が県だけではなく、奈良県、和歌山県もあわせて、そういうことについて協力して、そこに焦点を合わせていくということが意義があるのではないかなと思いますし、観光を通じて、やはりこの道がいいのか、高速道路が必要なのかとか、アンカールートがあるとか、ミッシングリンクを解消したりとか、こういうことが波及していくのではないかなと。また、地方の魅力を発信していただいて、三県が力を合わせて、いわゆる移住促進にもつながれば、また魅力発信につながればと、こういうようなことも目的があるわけです。もう1点の提案は、奈良県から提出されます、林業の担い手を含む産業振興、林業振興の点についてご提案がされて、それぞれの県で何か力を合わせるこ

いのかなということの情報共有を求める内容がありまして、もうすでに三重県にはアカデミーの新しい施設もできましたし、いろんな研修場所ができたということを紹介して、それぞれの三重県の取り組みを紹介して、また他の県の取り組みを勉強したいなど。さらには、県産材促進の三重県が条例を作ったことも含めて、それぞれの県がそれぞれの県の県産材を活用した木材振興、利用振興を図っていく。さらには、その連携をしていくことも重要ではないかなと考えておりまして、我が県だけよければいいということはもちろんないわけでございますので、そんなことを相談する機会にしたいなと思っております。

(質問) 要は意義があると。

(議長) もう一つ、形骸化というご指摘、ご心配をしていただいておりますけれども、そういうことがあってはならないということから、意見発表を活発にする、意見交換をさらにする、そういうことも、自らが注意喚起をしながら、与えられたものだけで噛み砕くのと違って、こちらから任意の意見を発表し、それぞれの聞いた内容を成果として、国への要請、昨年も藤田副議長に行ってもらいましたし、当番県だけが要請するというような形式的なものではなしに、せっかく三県が相談して決定したことについては、関係機関に要請行動もするということが重要ではないかなと。そういう成果をやはり出さないと、議会はもとより県民にお示しができないのではないかなと。心配しているということについては、十分今回から、去年からもそうですけれども、これからそういう意味で、敏感になって、形骸化にならないように、取り組みを私の方から進めてまいりたいと思っております。

(質問) 議長は和歌山県とか奈良県を最近行かれたことありますか。

(議長) 私は前回も和歌山県に行って、私が行った年は根来というところで、伊賀者が根来と仲良くするのとか、こんな話を冗談で言ったぐらいで、非常に面白い話になりまして、施設見学も、議事堂が、昔の建物を戦災を避けるために移転をしたという建物を視察もさせていただいたり、和歌山県については非常に当時のお話としては関心があって、記憶に新しいということです。

(質問) 岩出市でやられた和歌山県が肝いりの当番県でやられた会議がきっかけで、例えば新政みえの三谷さんとかは、もうこういうのは若干無駄じゃないかって感じで、要は今回の参加とかもですね、あんまりされてないって感じがあるんですけど。そのへんは結局、毛利元就の三本の矢じゃないですけど、三県がそれぞれ並んで、下水道普及率を46位か47位で三重県と和歌山県が

争ったような時代だったら、三県が固まるってのはある意味、意味があると思いますけど、和歌山奈良今行ったって、県都一つ、奈良市和歌山市見てもですね、インフラ整備とか地域づくりははるかに和歌山奈良のほうが優れてるんですね。それからいくと、もう地域間競争の時代になって大阪万博もそれぞれの県で観光誘客を図ろうとしてる時に、今、三県が力を合わせてっていう状態じゃなくてですね、三重県の力が落ち過ぎてるから。そんな感じがするんですけど、そういうことをお感じにならないですか。

(議長) 確におっしゃること分からないことではないと思いますし、確かに地域間競争はもうすでに始まってございまして、特に移住なんかは人の取り合いになっている現状があります。観光についても、地域間競争というのは厳しいというのは承知しております。だからといって、この熊野古道のイベントであったり、外部からのお客さまを取り合いということは、外部の方にあまり良い印象ではないかなと。やはり頑張っておすそ分けすると、また逆におすそ分けしてもらおうということも必要ではないかなと思っております。観光については、それからある議員のお話もされましたし、議会内部のご指摘の内容を、今ご指摘されましたけれども、これはそれぞれの所感というのはあるかと思えます。そういうことも含めて、すでにこの計画や内容については、各議員に周知をし、意見を入れながら、もし改善すべきものがあればそれを取り入れていくということも重要ではないかなと思えます。

(質問) 副議長はいかがお考えですか。

(副議長) 私、3、4年前に、和歌山県田辺市の観光拠点に、新政みえの議員4人と一緒に行ってまいりました。やっぱり地域間競争ではないですけども、随分と観光への紀伊山地の霊場と参詣道については、違いもあるなと思わせていただいて、もっと他県にも学びながら、もう少し振興していく必要があるんじゃないかなと思って帰ってきたところです。また今回こうやって三県の会議がある中で、それぞれの県の取り組み状況を聞きながら、三重県の観光振興につなげていけるように、そんな会議にできたらなと思っております。それから、県産材の利用拡大について、林業についても今回テーマになっているんですけども、やはり三重県の市場に奈良の木材であるとか、それから和歌山の木材、反対もあると思うんですけども。そういったところの物流では、少し動きはあると思うんですね。そのあたりの状況も聞きながら、今後三重県が県産材の利用拡大を進めていくにあたって、情報共有であるとか、学ぶべきところがあるのではないかなというように思いで、私自身は参加をさせていただきたいと思っておりますし、そういったことで県政に生かせるようなところを見つけま

いりたいなと思っていて、そういった意味では、私は今回やっぱりこの三県会議の議論の内容っていうのは、とても期待もしているところです。

（質問）林業に関して言えば、前鈴木県政時代の三県知事会議で、もともと奈良県が一番進んでいるんですね。奈良はヨーロッパの森林の手法を真似して、その経験者も招いてですね、林業アカデミーみたいなのを作ったわけです。その時に三重県もなかったから作ろうって話になって、三重県の場合は、すでにそういう技術経験者のスキルアップのための林業アカデミー。奈良の場合は初心者から含めての、要はボリュームゾーンは向こうは確保するわけです。そこで連携していこうということでこれはもう連携が結ばれてる。やってきてるわけだけど。でもその生産材についての区分けであるとか、どこを奈良は売って三重県は売るかとか、そのところの実質的なせめぎ合いはまだされてないんで。まあやるとしたらそこなんでしょうけど。今回はそういう話も出るんですか。議長。

（議長）そうですね。提案される方は奈良県ですけども、我々の意見ももちろん発言しますので、おっしゃるようなことも含めて議論を深めたいなと思います。今、三重県から言いますと、幸いに県産材利用促進の条例の木づかい条例が進んだり、それから民間の建築についても、木材、もとより、県産材を使う、昔の需要と供給が逆転しそうな気がするんですね。山側から見れば、木を使ってくれないからA材B材が売れない、C材だけがバラバラになっちゃって、このようなことが指摘された時代がもちろんありました。ところが今は、建築の現場、いわゆる作る方。やはり合板よりもこっちとか外材よりは日本産がいいということが徐々に徐々に深まってきまして、木造が増えた。また県産材の量が増えるという設計者が多いのですけれども、逆に部材がそろわないとか、いわゆる県内よりも奈良県や近隣のところから調達しなくてはいけないとか、特に広葉樹林のような硬い木は、なかなか三重県ではそろわないとか、そういう実態があります。よって、そういう意味から、もっともっと外部からの調整をしたりということが大事じゃないかなと思います。三重県には今、新たな合板の会社とか、作っていただければ非常にタイムリーかなということもちらほら聞いてますので。奈良県に頼ることなくできるとか、奈良県にもお世話になって、針葉樹林の合板であったり、曲げ加工なんて奈良県が得意ですので三重県とてもできませんので、それは、奈良県の技術を、その現場を活用させていただかなくてはいけない。大断面集成材だとかね、そういうのがあります。そんな、いわゆる現場の声と生産者の声が、それぞれ今まで課題とされていたところが、もっともっと密接する方が、よりお互いにいいのではないかなと、今つくづく思うようになってきました。

(質問) 木材の需要と供給ってということに関して、熊野の河上市長がおっしゃってたんですけど、要は国内の中でも、例えば宮崎県の材っていうのは非常に中国に出てるらしいんですけど、それはなぜかといったら、宮崎県が林道整備事業等を国がある程度その林道予算を減らした時に、宮崎県だけは林道整備だけに非常に予算をつけて、そこを整備したから、ある意味、材の積み出しが上手くいって、出せるんだけど、ただし中国が買ってるこの宮崎の材というのは、道路工事等の補助材で使う、つまり土止めであるとか、いわゆる建築資材じゃないと。だとすれば国内の中でも、当然建築資材の高めの方を目指すべきで、要は質の競争ではまだないわけですよ。その辺のことを、今後、明日どこまで話し合われるか分からないですけど、当然そういうのは出るんですよ。

(議長) 参考にさせていただいて、私も少し建築の方、比較的関心の高い方の議員でございますので、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

議長副議長の就任パーティーについて

(質問) あと議長になられて就任パーティーやられましたか。

(議長) 私は、会派の方は6月にさせていただいて、地元は先週30日にさせていただきました。

(質問) 名張ですか。

(議長) 名張です。

(質問) どのくらいの方が集まれたのですか。

(議長) 全部で200人あまりです。

(質問) これって政治資金収支報告書に来年載るんですか。つまりパーティーで集まるお金です。

(議長) これは後援会が主催でございますので、もちろん会費をいただいてその範囲内で支出をするというのが基本でございます。私の個人のお金は基本的に出さないということです。

(質問) 収支報告書には出てくるんですね。

(議長) 収支報告書でいくと、後援会自身の収支報告書は、届け出を毎年しておりますので、年末に整理をして、翌年の早々、私の後援会、政治団体として報告をさせていただいて、別にこの就任祝賀会のみならず、いろんな行事もありまして、後援会行事も含めて、総合的に報告させていただくこととなりますので。

(質問) 名張でやられたやつは会費は一人お幾らですか。

(議長) 会費は1万円です。

(質問) 副議長も昨日やられたというふうに漏れ聞いてますけど。

(副議長) はい。

(質問) これは津市内ですか。

(副議長) 津市内で行いました。

(質問) 何人ぐらい集められたんですか。

(副議長) 同じぐらい、200人ぐらいです。

(質問) 会費をおとりになって

(副議長) 同じく1万円です。

知事の政治資金パーティーについて

(質問) 分かりました。政治家ですから当然就任パーティーであるとかいろんな祝い事があってしかるべきだと思いますけど、行政は違うとは言いながら知事も一応後援会作られて、その政治資金パーティーやられてるんですが、ただし、あくまでも就任1年のときの中日新聞さんのインタビュー記事によると、知事は、役人でも知事ができると。要は政治家の思考ではないようなことを示されて、政治家でない人間が後援会を作ったりとか、パーティーやられることってというのは、議員という立場から見たときにどういうふうに思われます。

(議長) 政治家というのは、すべての地方議員であれ、国会議員であれ、首長

であれ、私は政治家と認識しておるんです。もちろんそのためには、政治資金規制法による、いわゆる政治団体というのは、あれば当然その組織や収支報告するのは当然法律にのっとってされるであろうと思います。今のご指摘は直接私も承知してませんので。どういう形のことをお示しされてるかちょっと分かりませんので、基本的なことはきちっとルールどおりされるべきだと思います。

(質問)だから、政治家部分じゃなくて行政職として知事職ができるとおっしゃってる役人的な色合いの濃い方が、政治的な意味の政務の後援会を作ったりとか、それで政治資金パーティーやられるっていうのは、これは前知事の時にも批判があったし、もともと北川さんとか野呂さんは、国会議員時代の後援会は形では残ってたけど、あえてそれを自分ご自身の知事選用には使わなかったし、そこはある程度距離があったじゃないですか。鈴木さんのときに変に後援会、全支部作っちゃったわけですけど、それについても最初立ち上げに批判があったと思います。今のこの一見知事の場合は、政治家よりも行政色が強いにもかかわらず、そこは政治家と似たようなことをやられてるんで、それについて、当然政治家である議員、特に議長ですね、議長とか副議長としてどう思われるかっていうのをお聞きしたんですけど。

(議長)当然、いち知事ということで、知事は三重県だけじゃなく全国にそれぞれおられますので、一見知事であろうと三重県知事がどなたであろうと、いろんなところに情報を収集して、何が正しいのか何がいいのかというのをご判断され、自らがそのようにされるべきだと思います。私どもは二元代表制の議会としての立場でございますので、直接知事の行動に対しましては、意見を言うには及ばないと思っております。

二元代表制についての知事の認識について

(質問)いやだから、知事の側に二元代表制の意識があるんですかね。例えば紀北町の臨海公園のプール開きのときに、議長も行かれましたけど、あの時に知事のあいさつがあったけど議長のあいさつはなかったじゃないですか。それとか、この前の県町村会の時も、知事はご自身のあいさつだけされてすぐ帰られて、そのあと議長のあいさつが控えられてて、国の町村会の本部から事務官が来てましたけど、そのあいさつも飛ばして帰られたりしてるじゃないですか。普通二元代表制ということのを向こうが意識してるならば、少なくとも議長のあいさつとか、そこは今までの歴代知事なら残って聞いてますよ。でもこの人の場合はないわけだけど、その辺は不快感はないですか。

(議長)ご指摘の点については、たまたま今回重なって、私もちょっとそんな

すぐ帰らんといてよという気持ちでございます。正直なところ。他のご公務がある場合は、知事とて、逆に私とて、そういうこともあり得ることですので、そこはお互いやればいいのかと思いますけれども。ご指摘の点については、ちょっとそこは、せいぜいやはりその点については、私と知事だけの関係と違って、そこにご出席の多くの皆さま方がどのように思われるかということも含めて、知事が最適な行動を取るべきだと思いますね。

(質問) 私はあれ、公務あと調べましたけど、町村会が1時半に始まって、知事は1時45分ぐらいにもう引き上げられたけど、でも次の公務って3時半のベトナムの大使が来るその時間まではないわけですよ。だからあえてあそこで議長のあいさつを聞いたことが公務全般に影響するとは普通思えないですけどね。

(議長) なかなか後までちゃんと調査していただいてありがとうございます。私も聞かなかったことにしていただいた方が良くかなと思います。

(質問) 副議長はいかがですか。その辺の二元代表制の、知事はじめ向こうの意識ですよ。

(副議長) ご答弁の中では、議会っていう二元代表制を意識して、議会に対してご答弁いただくこともあるので、認識をしていただいているとは私は思っておりますけれども。

(質問) はい、どうも。

(議長) よろしいですか。ありがとうございます。以上で記者会見終了させていただきます。また来月よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(以上) 11時14分 終了